

公園マスタープランに関するヒアリング調査 活動団体ヒアリング結果まとめ

1. 調査の概要

- (1) 目的：利用者が「楽しい」「訪れたい」と感じられる魅力ある公園づくりを進めるための「（仮称）江東区公園マスタープラン」策定にあたり、実際に江東区の公園やみどりに関する活動に関わる団体等の意見を把握し、今後の公園整備や管理運営の取組み検討の参考とする。
- (2) 方法：グリーンコミュニティ会議のメーリングリスト宛にアンケートの協力を依頼。「（仮称）江東区公園マスタープラン策定委員会」の委員でもある「マザーツリー自然学校」、「こうとうプレーパーク」については対面にてヒアリングを実施。
- (3) 対象：グリーンコミュニティ会議の参加団体
- (4) 期間：令和7年11月下旬
- (5) 回収数：9件
- (6) 主な内容：(1) 主な活動内容
(2) 活動を行う上での課題
(3) 行政・区民・事業者の連携による公園の利活用のアイデア
(4) 江東区内の公園に関する意見・要望

2. 結果まとめ

■ 主な活動内容

・マルシェやワークショップ、自然体験活動、コミュニティガーデンなど、多様なイベントや活動が各団体で実施されており、活動頻度や参加人数は団体ごとに異なるが、年数回から月数回、数名から数十名規模で行われている

団体	主な活動公園	活動頻度 (活動人数)	内容
1	越中島公園、潮見しづさわ公園、豊洲公園・豊洲ぐるり公園等	年、各公園ともに1～2回程度 (活動内容により変動)	・マルシェへの参加、見学ツアー、モニタリング、社会実験等
2	汐浜運河前の公開公園（民間敷地）	マルシェ等：年2回（多数） GI関連：月1回程度 (10名程度) その他臨時のイベント適宜（コンテナカフェ（外部事業者）週5～6日営業）	・水辺のにぎわい創出や地域コミュニティ醸成を目的としたマルシェ等のイベント開催 ・グリーンインフラの導入・整備
3	木場公園、江東区役所・新木場駅前・清水建設ノバーレ など	月に3回程度 (1回当たり5人～40名程度)	・コミュニティガーデン活動のアドバイス ・花壇のお手入れの仕方やお楽しみのノウハウ、企画など
4	東陽公園・木場公園	年2回 (10名程度)	・グリーンフェスタへの協賛・出店（竹細工教室） ・江東区民まつりへの協賛・出店（竹細工教室）
5	東陽公園、木場公園	年6回（71名程度）	・コミュニティガーデンの支援 ・グリーンフェスタ、区民まつりなどのイベント参加 ・研修会、見学会の開催
6	越中島公園 及び小名木川遊歩道	越中島公園：年2～3（各回20名） 小名木川遊歩道：年10回程度（2～4名程度）	・越中島公園：マルシェなど ・小名木川遊歩道：ゴミ拾い
7	大島9丁目公園、木場公園、猿江恩賜公園	月に1回（スタッフ5～25、参加者20～400名程度）	・プレーパーク活動

8	都立：木場公園・夢の島公園・猿江恩賜公園・亀戸中央公園・清澄公園・辰巳の森緑道公園 区立：豊瀬I公園・南砂3丁目公園	年に150回程度（13名）	・ 自然体験活動・自然教育・環境教育（乳幼児親子、幼児、親子、大人）
9	東京ガスパビリオン ガステナーに敷地内	週1のメンテナンス、月1回のギャザリング回程度（10～15名程度）	・ コミュニティガーデンHACO畑の運営

■ 活動を行う上での課題

・イベント開催や活動のための予算確保、備品の保管場所、スタッフ確保、近隣対応、敷地所有者との調整、許可手続きなど、運営面での課題が挙げられている

意見の分類	内容
公園・企業緑地の連携強化によるエリア全体の魅力向上	・ エリア全体の魅力向上につなげていく余地がまだまだ多い。 ・ 区立公園はまちづくりの拠点として、公園内部の取り組みをはじめ、周辺エリアの企業や市民の民間活動との相乗効果を狙った連携活動に力を入れてほしい。
既設公園の柔軟な運用	・ 地域ニーズを踏まえた参加型の整備を進め、柔軟な運用を進める。 ・ 例：越中島公園：区・NPO・市民団体・企業が協働しネイチャーツアー・野草展示等を実施。 ・ 生物多様性やスマートシティなど、より未来志向が求められる社会課題に対して、官民連携でより先進的な運用を探索する。 例：生物多様性に関して、公園＋周辺緑地での参加型モニタリング → 管理にフィードバック スマートシティに関して、低速モビリティの導入、モビリティハブの公園内設置 等 → 公園管理者判断で柔軟な運用ができる仕組みがあるとよい。
イベント実施・協議会運営における課題	・ イベント開催費用（什器備品の購入、レンタル）、GI等環境整備や施設維持管理に関わる費用の協議会としての予算確保（民間敷地内なので償却資産税発生、みどりのほかウッドデッキ、トイレ、水、電気など諸々。また企業協賛への依存の割合が大きい） ・ 近隣対応（案内周知、音の問題など） ・ 敷地所有者との調整。 ・ 関係機関の許認可等、調整や届出が分かりにくい。申請方法や考え方、注意点などを分かりやすく整理し、利用者に開かれた情報として提供していくことが重要。
ボランティア・市民活動に関する課題	・ コミュニティガーデンとの連携を進める上で、個人情報保護が障壁となる場面が多々ある。 ・ 活動拠点となるような場所が出来ると良い。 ・ コミュニティガーデンは90ヶ所を超え、地区での活動の盛り上げや、地域との連携がこれからの課題になる。 ・ スタッフの人員確保。運営スタッフが少ない。 ・ 活動予算が少ない、備品置き場がない。（スタッフ自宅保管や団体の隅に間借りしている。） ・ 運営スタッフの確保が困難。 ・ プレーパークの価値理解が広がっていない。
運用課題	・ 水道栓が花壇から離れており不便。 ・ ゴミの処分。 ・ 竹細工は、竹を切る際の音や、削りカスなどの散乱が周囲の店舗や来場者に影響する可能性。 ・ 自然環境そのものの限界。（自然度が十分でない、公園管理との調整） ・ 気候の影響。（夏季の猛暑による活動のしにくさ）

	・公園利用者同士の調整。 ・安全管理・リスクマネジメント。（年齢差が大きい子への対応、樹木等の剪定の仕方） ・公園のルールが厳しい。 ・民間地のため、継続的な活動ができるかの不安がある。 ・資金調達（2023・4年は補助金を利用、民間企業から敷地を無料で借りていることもあり、参加費等を徴収できず個人負担となっている）
関わりやすい環境の整備	・公園の価値を高めるため、指定管理者や行政だけでなく、地域の住民・事業者など多様な区民が関わりやすい環境を整えることが欠かない。「誰もがプレイヤーになれる公園」として開かれていくことが、活気ある利用促進につながると考えている。

■ 連携による公園の利活用のアイデア

● 公園の新たな価値創出

- ・公園と水辺の連携や、スマートシティの観点からの新しいサービス導入（モビリティハブ、来園ポイント制度など）
- ・公園を「地域と水辺を結ぶハブ」として活用し、回遊性や交流の促進を目指す

● 子ども・市民参加の促進

- ・プレーパークや自然体験活動を通じて、子どもが安心して遊べる場や、地域住民が主体的に関われる環境づくり
- ・公園を「地域の学びと育ちの場」として位置づけ、多世代交流や健康寿命の延伸に寄与

意見の分類	内容
公園を核とした参加型まちづくり	【多様な主体の協働を促す仕組みづくり】 ・「グリーンコミュニティ会議」が、公園を核とした協働プラットフォームとして機能し始めている。 ・区立公園を起点に、地域の多様なステークホルダーが連携し、ワークショップ・まち歩き・社会実験等の地域連携が進んでいくと良いと考えている。 ・越中島・潮見など自社施設のあるエリアでグリーンインフラの地域共創を進めている。 ・公園と企業の連携をより深め、エリア価値向上につなげていきたい。 【オープンスペース活用の地域連携強化】 ・豊洲エリアでは（一社）豊洲スマートシティ推進協議会がオープンスペース活用促進プラットフォームを国交省事業にて推進中である。 ・地域住民や公園の指定管理者とのワークショップで、公園を含む地域のオープンスペースの利活用に関するアイデアを収集予定。 ・地域発アイデアが公園で実施できるよう、公園側の後押し・利用料減免（非収益事業）などの配慮も期待している。
水域と連携した公園の活用	・区内には、公園や民間緑地沿いに運河や河川がネットワーク化されており、CIG推進において活用のポテンシャルが大きい。公園敷地内の水辺に加えて、水域と連携した公園の活用についても検討していけるとよい。 ・公共空間（特に水辺空間や護岸）と民間敷地の空間整備・利用の連続性確保。 ・公園を単独の空間として捉えるのではなく、「街や人とのつながり」を意識した使い方が重要。公園を「水辺の入口」として公園と水辺が連動する仕組みを整備することで散策・舟運を含めた回遊性が高まり、新たな交流が生まれる可能性がある。 ・他自治体の「かわまちづくり」や「かわてらす」のように、公園を「地域と水辺を結ぶハブ」として捉えることで、多主体が関わる多様な活動が生まれ、魅力向上につながると考える。 ・江東区の歴史資源（例：ゴミ問題との向き合い）を生かした廃材ワークショップなど、「江東区らしさ」の表現にも活かせる。
グリーンインフラ・ガー	・緑の維持管理の連携を行う。

デン活用と地域共創	・江東区内の運河ルネサンスやコミュニティガーデンなどみどりの活動のネットワーク連携を図る。 ・区立公園での落ち葉や植え替えの際に発生する抜き取った苗などをできるだけ公園内で土に返すためのノウハウの確立をする。 ・企業にお勤めのみなさんの社会貢献と健康のためにガーデニングを取り入れる・ ・福岡市の一人一花運動のような取り組み「花でまちづくり」花をツールとしてつかい、グリーンジョブを増やす。企業の協力体制などスポンサーが集まる地域性もある。 ・まちの景観美化が安心安全なまちづくりにつながり、区民の健康寿命を延ばすことにつながるというアピールができればよい。 例：恵庭市 公園に暮らしの保健室をつくり、拠点とすることを目指す取り組み 新潟県見附市 「みつけイングリッシュガーデン」の取り組み 武蔵大学のサステナビリティ学科の屋上での循環型コミュニティガーデンの取り組み ・コミュニティガーデンを核とした公園の活用を行う。 ・公園資源の有効活用・循環（剪定枝や落ち葉などの意図的ストックがある）をする。 ・“ゆるい管理”により、子どもが遊べる部分を残す。 ・公園を自然体験や自然学習の“生きた自然フィールド”とする。 ・公園内にふらっと立ち寄れる自然系施設をつくる。（親子の居場所、地域コミュニティ） ・NPO と協働し、公園活動の充実化を行う。
子どもの育ちを支える公園（プレーパーク等）	例：プレーパークせたがや（日本の元祖。常設、地域が面的に繋がる、橋渡しの役割を持つプレーパーク） 品川・そとぼーよ（常設、移動式プレーパーク） 練馬・PLAYTANK おひさまびよびよ（乳幼児版プレーパーク、子育て世代の母親の雇用創出） 豊島WAKUWAKU ネットワーク（公園で見かけるちょっと気になる子どもを真ん中に、社会がその子を助ける仕組みを構築） 川崎こども夢パーク（様々な境遇の子どもの居場所として、地域のセーフティネットとしての役割）
エディブルガーデン（食×公園）の可能性	・食べられるものを育てられるコミュニティガーデンがあるといい。食は全ての人に関係することであり、教育、福祉、防災など多面的な機能をもっており、公園の有効性をさらに向上させる。 例：渋谷区/原宿はらっぱファーム、ササハタハツファーム 世田谷区/2024年度より公園内で食べられるものを育てることを解禁、現在2箇所を実施 大田区/羽田空港第1ターミナルの跡地の公園内にファームを計画中 品川区/2024年区役所の屋上に子どもたちの収穫体験の為のファームを開園 東京都/小金井市わくわく市民農園を運営 兵庫県神戸市/エディブルガーデンを市内に複数箇所設置"
教育・体験・サービス導入による価値向上	・学校や地域団体と協力し、生きもの調査、樹木の管理体験、ビオトープの保全などを行う。 ・カフェキッチンカー、レンタサイクル、ワークアウト器具の設置など、民間の力を活かしたサービス導入。 ・来園促進・利用者数の底上げ、利用者データ取得による公園運営の高度化を目的とした来園ポイント制度の導入。

■ 区内の公園に関する意見・要望

- ・コミュニティガーデンの拡大や活動拠点の確保、行政との連携強化などが要望されている
- ・公園や企業緑地の連携を強化し、エリア全体の魅力向上を目指す意見が多く見られ、特に、既設公園の柔軟な運用や、民間活動との相乗効果を狙った取り組みが期待されている
- ・公園を核とした参加型まちづくりや、地域の多様な主体が協働するプラットフォームの構築が求められている

意見の分類	内容
行政や多様な主体との連携強化	・ 民間敷地内の公共公益的施設の規制緩和、維持管理費用への行政補助。 ・ 公園の幅広い利用を考えた場合、土木部のみではなく、地域振興部、こども未来部、福祉部など、区役所の他部署との連携が必要になると思う。色々な視点から、検討や制度設計が進むことを期待している。 ・ 過密な人口のなかで、緑の役割は重要である。土と離れて暮らす人が多いので、公園は貴重なスペース。自ら自然と関わる人が増えるようにしたい。市民活動が盛んなので、応援してもらえたらいいと思う。 ・ 江東区の公園がより魅力的な場所になるためには、行政・指定管理者・住民・事業者が対話しやすい「開かれた公園運営」が重要だと感じている。
エリア全体や地域の魅力向上	・ 江東区は水辺に恵まれた地域であり、公園と川・運河・親水空間が一体となった活用ができると、回遊性が向上し、街全体の魅力づくりにもつながる。散策、舟運、自然遊び、マルシェなど、多様な活動が公園を起点に広がることを期待している。 ・ 区民農園があるが、全体的に少ないので、景観美化と絡めてお野菜などもたのしめるポタジェなどを進められたら良いと思う。
既設公園の柔軟な運用・インクルーシブ	・ 公園の利用ルールや申請方法が分かりやすく整理され、多様な区民が公園づくりに関わりやすくなることで、「自分たちの公園」という意識が生まれ、地域に根づいた活用が進むと思う。 ・ ここ数年、区内でもさまざまな自治体が食べられるものを育てるコミュニティガーデンをはじめている。食べられるものを育てることを解禁することにより、コミュニティガーデンが増え、みどりと親しむ人が今以上に増えることを願う。 ・ 公園はみんなのもの。そこに集う人たちの憩いの場であり、癒しの場であり、楽しい場であることを願う。多種多様なニーズにフレキシブルに対応でき、許容できる場であることを望む。 ・ 固定遊具一辺倒ではなく、自然素材で遊ぶゾーンや、地面の多様性（芝・草地・土）、地形（ほんの少しの斜面・凸凹）、季節を楽しめる仕掛け（木の種類、実のなる木）、木陰など、多様な年齢が満足できる多様な公園づくりができたら楽しいと思う。 ・ 公園は子どもが創造性を育む大切な場所でもある。安全に配慮しつつ、子どもが主体的に遊んだり、地域団体や住民と自然に交流できる環境が整うことで、公園は「地域の学びと育ちの場」としてより豊かな空間になると考える。 ・ 子どもの徒歩圏に、子どもが安心して「行きたい」と思える空間をつくれるように、母親として、自分の子どもを含む、近隣のすべての子どもが健やかにのびのびと育つ場所でありますように、願ってやまない。たくさんのキラキラした思い出が、子どもたちの記憶の中に、地域の公園とともにありますように。都会の中の「ふるさと」のような、あたたかいものでありますように。